

SSHCONニュース

第85号 発行日：令和6年2月21日

(一社) 日本労働安全衛生コンサルタント会埼玉支部

・TEL 048-649-8617 ・Fax 048-649-8618

・〒 330-0804 さいたま市大宮区堀の内町1-116-1 安藤ビル3F

・支部 URL <http://jashcon-saitama.com/>



令和6年元日に能登半島を襲った大地震は、いまだに被害の全容がつかめないほどの大惨事となってしまいました。ニュースで悲惨な状況を目にすると、日本では、大規模な災害が時と場所を選ばずに繰り返し起こるということを痛感させられます。一方、羽田空港の滑走路上で旅客機と海上保安庁の航空機が衝突して炎上した事故、政治資金問題や価格高騰、大手自動車企業の不正認証問題をはじめとして、令和6年に入ってから様々な社会問題が山積しています。また世界に目を向ければ、今起こっている戦争や紛争も解決する兆しが見えません。

辰年に因み、経済だけでも長きにわたった停滞を抜け出し、新たな成長へと踏み出すことを願っています。立春を過ぎ、暦の上では春となりますが、まだまだ寒い日が続きます。会員の皆様におかれましては、どうかご自愛いただきお元気にお過ごしください。(事務局広報部)

ニュースの主な内容

1. 研修部だより	2
2. 事務局だより	3
3. 会員寄稿	5
4. 最近の報道より	7

1. 研修部だより

埼玉支部研修部会主催の定期研修会（第131回）を令和5年12月15日にハイブリット形式（市民会館おおみや+Zoom利用）で開催いたしました。

出席者は会場10名、リモートからは13名で、研修会テーマと講師は以下のとおりです。

- ・講演テーマ 「労働者の負担を定量化する人間工学評価ツールの紹介」

講師：労働安全衛生総合研究所 リスク管理研究グループ 平内 和樹 研究員

- ・講演テーマ 「ISO45001 審査の実際」

講師：労働安全衛生コンサルタント会 埼玉支部会員 小泉 潤一講師

今回の研修会の会場は前回と同様に「市民会館おおみや」（場所は大宮駅近くに完成した「門街ビル」の中にあるコミュニケーションセンター6階の集会室10）を使用しました。新しく使い勝手が良い集会室で設備（有料）も充実しており駅からも近いため、会場を使用する機会がある時には引き続き予約したいと思います。（令和6年2月10日の支部役員選挙でも使用予定）

講演の内容としましては、平内研究員からはなかなか減らない「行動災害（転倒、腰痛など）」にフォーカスした現状の分析と「人間工学評価ツール」について講話をしていただきました。労災の現状については、13次労働災害防止計画期間の労災の発生状況と14次労働災害防止計画についての内容でした。「人間工学評価ツール」については、人間工学の概要、人間工学評価ツール、人間工学評価ツールの選択法、ツールの利用上の注意点、ツールの紹介（荷物取扱い、全身作業姿勢、上肢作業姿勢、上肢反復作業）など専門的内容を解りやすく、かつ詳細に説明をしていただきました。

小泉講師からはISO45001の制度（JISQ45100、ISO14001など）についての説明や認証機関による認証数の実態、ISO審査の内容や審査員になるにはなど実務経験に基づいた内容を解り易く説明していただきました。

両講師からは専門的内容とコンサルタントの実務に生かせるヒントなど盛り込んだ非常に貴重な内容だったと思います。次回の支部研修会の日程につきましては、次の幹事会で日程調整をしたいと思います。

（森玄正研修部長）



2. 事務局だより

- (1) 令和5年度臨時第2回幹事会(Web)が令和5年12月9日(土)にリモート会議方式で開催されました(下記報告事項は、12月9日時点の情報に基づいて記載しています)。

I 報告事項

1. 支部長報告(中澤支部長)

南関東ブロック会議(千葉)に埼玉支部からは4名が参加しました。本部からは藤井副委員長と田中専務理事の参加がありました。その後、情報交換会が開催され、その時に本部から来年の本部理事の推薦を南関東ブロック会議の枠から推薦してほしいという話があったので、この後、審議をお願いします。

2. 事業部会各部からの報告

(1) 企画部(真崎企画部長)

リーフレットのリニューアル版を出すためのプロフィール調査を実施しますのでご協力をお願いします。

文書で労働局に通知して、各労基署にリーフレットを置いてもらうようにします。

(2) 研修部(森研修部長)

第131回支部研修会を以下のとおり、開催予定です。

12月15日(14:00~16:00)

ハイブリット形式(さいたま市民会館おおみや+Zoom)

安衛研:平内和樹講師、埼玉支部:小泉潤一講師

(3) 業務部(井上業務部長)

支部紹介業務(相談件数15件中、契約8件、不成立4件、不明3件)

謝金の入金は順調に進捗しています。

不明の契約状況については、紹介業務の交渉報告書を提出して下さい。

3. 事務局及び各部からの報告

(1) 総務部(椎名総務部長)

会員及び事業部会員の入会・退会

	入会	退会
支部会員	山村 航(安全 機械)	角田丈治(衛生 保) 河合弘憲(東京支部に移動)
事業部会員	なし	なし

(2) 広報部(青木広報部長)

SSHCONニュース 84号発行(11月)

次回は1月に発行予定。

(3) 会計部（田中会計部長）

支部の全体収入は3/4半期が終わってプラスで推移しています。

最終的にはプラスの方向で収まると想定しています。

源泉徴収票を支部長が発行します。

Ⅱ 審議事項

1. 南関東ブロック大会報告

2. 支部長候補者及び監事候補者の選挙について

従来どおり、事業部会員を対象に無記名投票の選挙とします。

役員候補者選考委員は石田さん、井上さん、と真崎さんをお願いします（3名とも了承）

開票会場はおおみや市民会館を予定。

投票用紙は、1/15を締切として石田さん宛に郵送とする。

3. 事務所電話機交換に関して

電話機の機種更新を予定。12/22に森さんが配線を調べて、更新内容について検討する。

4. 来年度の本部理事候補推薦に関して

南関東ブロックの割当ては2名で、予備1名を含めて計3名を千葉支部取りまとめで本部に推薦する。埼玉支部からは森さんを継続推薦とする。推薦については支部長から千葉支部長に連絡する。

5. LINEに埼玉支部グループラインを立ち上げる予定。（森研修部長）

6. 労働局の労使専門家会議委員の委嘱

支部長を推薦することとします。前任は石田さんでした。

Ⅲ 次回幹事会の予定

2024年2月10日（土） 14:00～

3. 会員寄稿「朝霞歴史散歩」

埼玉支部 広報部長 青木行宏

朝霞市民である私は最近、朝霞市岡3丁目の高台にある、埼玉県指定史跡「柊塚古墳」の存在を偶然知りました。柊塚古墳は朝霞市域の古墳で最大のものです。墳丘長約66m、後円部直径約48m、前方部長約18mの前方後円墳で、地表からの高さは後円部で約7mです。発掘調査によって6世紀中頃のものであることが判明しています。この古墳はどうしてこの場所に作られたのでしょうか。その背景について、稚拙ながら調べたことを書いてみたいと思います。

朝霞の台地（武蔵野台地）には、旧石器も発見されていて、3万年も前から原始人が暮らしていました。縄文時代に入ると温暖化が進み、約6千年前には現在の荒川・元荒川・利根川流域の低地は海底だったそうです。朝霞の台地はこの「奥東京湾」の入江に面していて、台地の縁辺部に住んでいた縄文人たちは豊富な海の幸を食料源として暮らしていたそうです。現在の城山公園（岡3丁目）の南側斜面下には、小さな貝塚が見つかっています。縄文時代は約1万年以上続きましたが、温暖な気候になったことから台地上は温帯性の森で覆われ、植物や動物の豊富な食糧を得て集落もできるようになりました（泉水山・富士谷遺跡）。約2千4百年前には稲作が始まり、「弥生時代」が始まりました。朝霞周辺では弥生時代中期に稲作が伝わり、こ

れに伴い新しい集落が形成されていきました（新屋敷遺跡、向山遺跡）。遺跡からは多数の住居跡の他、稲作に必要なさまざまな道具が見つかっているそうです。稲作の定着によって人口の増加が起こり、農耕地の拡大が必要となり、集落が集まって連合して「ムラ」を構成するようになりました。朝霞市は武蔵野台地の端に位置しており、いくつもの河川が低地へと流れ下っています。河川低地は稲作に適しており、河川に流れ込む小川や湧水によって台地上にできた谷などでも稲作が盛んに行われていたと考えられています。

「ムラ」の出現によって、ムラどうしの争いが始まりました。ムラどうしの争いは征服と服従関係、そして同盟や連合関係を経て、河川を中心として地域集団を形成し、その集団がさらに統合されて「クニ」と呼ばれる社会が作られていきました。ムラの首長たちはクニの指導者や支配者となり、子孫は豪族と呼ばれ、競って古墳を築き、権威や力を誇示しようしました。日本では大きさも形も様々な古墳がたくさん作られましたが、そのうちの一つが柊塚古墳でした。朝霞が武蔵野台地の端に位置するという地理的な条件は、旧石器時代以降、人々が生活をし、社会を形成していくために重要な条件であったと思われ、柊塚古墳がこの場所に作られた背景にもなっていると思われます。



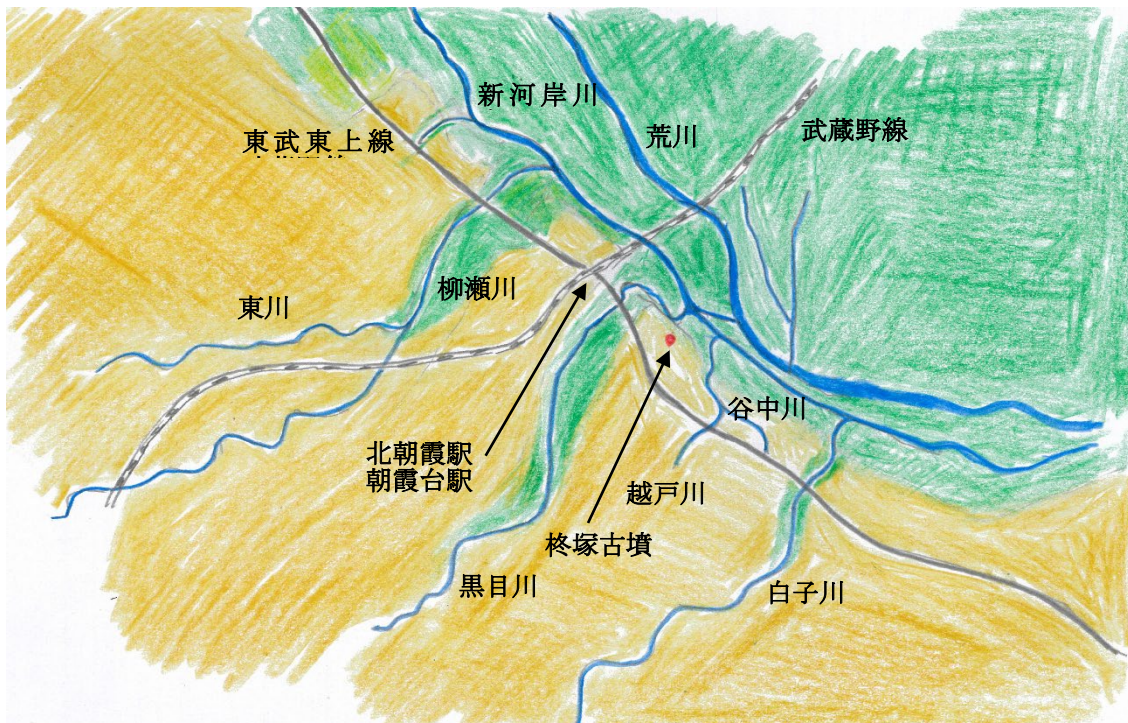
柊塚古墳は、歴史広場として整備、開放されています。



芝生広場から見た墳丘



墳丘から出土した家形
埴輪と円筒埴輪
(朝霞市博物館 所蔵)



朝霞市周辺の地形イメージ図

参考文献：朝霞市史普及版 あさかの歴史

朝霞市ホームページ <https://www.city.asaka.lg.jp/soshiki/42/sitei-hiiragiduka.html>

4. 最近の報道より

■厚生労働省その他の動き（気になる情報の抜粋）

月日	表題	概要
令和5年 9月21日	安衛研 過労死等防止調査研究センター（RECORDs）ポータルサイトを開設	このポータルサイトでは RECORDs のメンバーによって執筆された学術論文等の研究成果や、これまで発表してきた研究報告書や資料を労働安全衛生の専門家や一般の方々にも分かりやすく解説している。 https://records.johas.go.jp/news/1
10月13日	厚生労働省 令和5年版過労死等防止対策白書を公表	睡眠の不足感が大きいと疲労の持ちこし頻度が高くなり、うつ傾向・不安を悪化させ、主観的幸福感も低くなる傾向があること、芸術・芸能分野における働き方の実態、メディア業界や教職員の労災事案の分析結果等について報告。 https://www.mhlw.go.jp/stf/wp/hakusyo/karoushi/23/index.html
10月27日	厚生労働省 「個人事業者等に対する安全衛生対策のあり方に関する検討会」の報告書を公表	建設業で働く一人親方等の死亡災害の状況についてみると、個人事業者、中小企業事業主等についても業務上の災害が相当数発生しており、特定の事業等においては災害発生率が労働災害を上回っている状況も見られることから、個人事業者等に関する業務上の災害の実態把握、実態を踏まえ災害防止のために有効と考えられる安全衛生対策のあり方について検討された。 https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_36009.html
11月20日	安衛研 「小売業・飲食店における労働災害防止の進め方」報告書を公表	小売業、飲食店それぞれの業態別労働災害の特徴、労働災害を防止させた企業の労働災害防止対策の具体的な取り組み好事例とともに、転倒災害を防止するため、転倒災害の心理的・身体的要因（海外文献Web 調査結果）、転倒経験者インタビュー調査結果、転倒リスクに係る身体機能低下の計測方法事例、転倒予防体操事例、運動器外傷データを用いた転倒データ分析結果などを盛り込んだ。 https://www.jniosh.johas.go.jp/publication/houkoku/houkoku_2023_03.html

11 月 30 日	厚生労働省 変異原性が認められた化学物質の取扱いについて	基発 1130 第 3 号 新たに変異原性が認められた 18 の物質について、別添の「変異原性が認められた化学物質による健康障害を防止するための指針」に基づく措置を講ずるよう求めるもの。 https://www.mhlw.go.jp/hourei/doc/tsuchi/T231204K0081.pdf
12 月 1 日	埼玉労働局	職場の安全と健康に関する出前講座（S A F E 出前講座）等を実施 https://jsite.mhlw.go.jp/saitama-roudoukyoku/content/contents/001649252.pdf
12 月 13 日	厚生労働省 「個人事業者等の健康管理に関するガイドライン」作成へ。	第 158 回労働政策審議会安全衛生分科会（資料）資料 2 「個人事業者等の健康管理に関するガイドライン」の基本的な考え方等（案）について 「個人事業者等に対する安全衛生対策のあり方に関する検討会」報告書をもとに、個人事業者等が健康に働くために、個人事業者等が自身で行う事項、個人事業者に仕事を注文する注文者又は当該仕事を管理する者（プラットフォームも含む）が行う又は配慮する事項等を周知することで、それぞれの立場での自主的な取組を促すもの。 https://www.mhlw.go.jp/content/11201250/001177849.pdf
令和 6 年 1 月 9 日	厚生労働省 「労働安全衛生法等の一部を改正する法律等の施行等（化学物質等に係る表示及び文書交付制度の改善関係）に係る留意事項について」の改正について	基安化発 0109 第 1 号 SDS の「適用される法令」の記載内容を明確にするための改正を行ったもの。 https://www.mhlw.go.jp/content/11300000/001187657.pdf
1 月 16 日	厚生労働省 高純度結晶性シリカの微小粒子を取り扱う事業場に関する注意喚起について	厚生労働省労働基準局 安全衛生部労働衛生課長 事務連絡 https://jsite.mhlw.go.jp/okinawa-roudoukyoku/content/contents/001707680.pdf
1 月 24 日	安衛研 労働安全衛生規則第 592 条の 8 等で定める有害性等の掲示内	有害物の有害性等に関する掲示内容における「おそれのある疾病の種類」及び「疾病の症状」の記載例を掲載しています。

	容について	https://www.jniosh.johas.go.jp/groups/ghs/arikataken_report.html#m02-03
1 月 31 日	厚生労働省 令和 5 年度化学物質管理に係る専門家検討会 報告書	リスクアセスメント対象物ごとのばく露濃度の基準値（濃度基準値）とその基準値を満たしていることを確認するための測定精度の担保の仕組みなどを整理 https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_37528.html
1 月 31 日	厚生労働省 「建築物等の解体等の作業及び労働者が石綿等にばく露するおそれがある建築物等における業務での労働者の石綿ばく露防止に関する技術上の指針」の一部改正	https://www.mhlw.go.jp/new-info/kobetu/roudou/sekimen/hourei/dl/kou_teki6.pdf

次号は令和 6 年 4 月中旬頃発行予定です。皆様よりの情報提供を期待しています。
また、コンサルタント事例としての経験談（成功談でも失敗談でも）を募集しています。
それ以外の内容でも大歓迎です。寄稿をお待ちしています。

- ・今回の SSHCON ニュースに対するご感想・意見等をお寄せ下さい。
- ・みなさんがお持ちの情報、写真等で会員みなさんに提供したいものがありましたら、連絡下さいますようお願い致します。